

教科（科目）	理科（生物基礎）	単位数	2単位	学年（コース）	2～4年次
使用教科書	実教出版『高校生物基礎』				
副教材等	なし				

1 学習目標

生物や生物現象に関する基礎知識を身につけ、科学的に探求するために必要な資質・能力を育成する。

2 指導の重点

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解し、科学的に探求するために必要な知識や技能を身につけるようにする。
- ・観察・実験を通じ、科学的に探求する力を養う。
- ・生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物や生命現象に関する基本的な知識やとらえ方を理解している。科学的に探求するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身につけている。	生物や生命現象について論理的に考え、的確に表現することができる。生物と人間生活の関わりについて問題点を見だし、主体的にとらえようとしている。	自然の事物・現象に関心を持ち、授業や観察・実験に主体的に取り組むことができる。教師の発問に対して意欲的に答えようとする。

4 評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査や小テストの分析 ・ワークシートなど課題の内容 ・実験や観察への取り組みや内容から評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査や小テストの分析 ・ワークシートなど課題の内容から評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業へ出席や取り組み ・ワークシートなど課題の内容 ・実験や観察への取り組みや内容から評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業字数と領域	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	生物の特徴	19 ・生物の多様性と共通性 ・生物とエネルギー	・生物は多様でありながら、共通性があることを理解する。 ・すべての生物は細胞から成り立っており、その中で様々な生命活動が行われているとともに、エネルギーの変換も行わせていることを理解する。	a b c	課題と前期中間考査
5					
6					
7	遺伝子とその働き	19 ・遺伝情報とDNA ・遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの研究過程をふまえ、遺伝子としてのDNAの構造と働きについて理解する。 ・タンパク質合成のしくみを知り、遺伝現象とは遺伝子を基に合成された特定のタンパク質が体内で働くことにより起こることを理解する。	a b c	課題と前期期末考査
9					
10	ヒトのからだの調節	16 ・体内環境 ・体内環境の維持のしくみ	・恒常性維持の重要な要素である体液・自律神経・ホルモンの特徴や働きを知り、それらの巧みな連携により体内環境が保たれていることを理解する。 ・生体内には病原菌などの異物を認識し、排除して体内環境を保つしくみがあることを理解する。	a b c	課題と後期中間考査
11					
12	生物の多様性と生態系	16 ・生態系とその成り立ち ・植生とバイオーム	・生物（特に植生）と環境のかかわりについて理解する。 ・生態系の構成や概念を通して、物質循環やエネルギーの流れを理解する。	a b c	課題と後期期末考査
1					
2					

計 70 時間（50 分授業）

6 課題・提出物等

- ・ワークシートや小テストを課し、提出を求めます。定期考査はこの内容をもとに行います。
- ・観察・実験ではレポートの提出を求めます。

7 担当者からの一言

生物学に興味を持ち、真面目にコツコツと学ぶ姿勢を望みます。  
将来医療系や農業系等に進学を考えている生徒は、選択するとよいでしょう。